

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ナチュファミ（児発・放デイ）		
○保護者評価実施期間	令和7年4月 1日		～ 令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和7年4月 1日		～ 令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価作成日	令和年 2月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安全で安心できる環境整備 利用定員に対して十分な活動スペースを確保し、清潔で落ち着いた環境づくりが徹底されている	段差の視覚化など、子どもの特性に応じた工夫も行われている。 言語活動室・個別対応室・一人になれるスペースなど、子どもの状態に応じた環境を柔軟に提供している。	環境調整のさらなる最適化 子どもの感覚特性に応じた照明調整や、安心できる個別スペースの拡充など、より細やかな環境づくりを図る。 職員体制の強化と業務効率化 突発的な欠勤にも対応できる体制づくりや、情報共有システムの導入による支援の一貫性向上の為に研修実施。
2	多角的なアセスメントと質の高い個別支援計画 フォーマルな検査と日常の行動観察を組み合わせ、多面的な視点でアセスメントを実施。全職員で計画書を読み合わせ、一貫した支援を提供している。	フォーマルな検査と自由遊びの観察を組み合わせ、多面的なアセスメントを意識的に実施している。 全職員で計画書を読み合わせ、一貫した支援ができるよう徹底している。 児発管だけでなく全職員が検討会議に参加し、多角的な視点から「最善の利益」を追求している。 モニタリングや記録を丁寧に行い、週・月単位で振り返りを行っている。	個別支援計画の質向上と長期視点の強化の為、将来の自立を見据えた長期的な目標設定や、評価指標の統一化による客観性の向上。 活動プログラムの根拠づけと専門性向上 活動の目的や根拠をより明確にし、専門性を高める取り組み
3	職員間の連携とPDCAの定着 朝礼・終礼・会議を通じて情報共有が徹底され、日々の振り返りと改善が組織的に行われている。 保護者との信頼関係と丁寧な情報提供 日々の会話や面談を通じて保護者の思いを丁寧に受け止め、計画作成にも反映。SNSやお便りで活動の様子を積極的に発信している。	指定基準以上の手厚い職員配置を行い、子どもの特性に応じた支援ができる体制を整えている。 朝礼・終礼・職員会議を通じて情報共有を徹底し、支援のズレが生じないように意識している。 経験の浅い職員も意見を出しやすい雰囲気づくりを行い、現場の気づきを迅速に改善につなげている。 活動の振り返りや子どもの様子を日々共有し、PDCAサイクルを組織的に回している。	今後も、継続していくための仕組みづくりを、職員全員で確認共有していくため、年間計画に研修や定期的な確認とすり合わせの時間を取組んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の内容や取り組みは実施しているが、その成果や改善点についての記録・整理が十分とは言えず、第三者や保護者にわかりやすくしめす点に課題がある。	日々の支援を充実する中で記録や評価の整理に十分な時間を確保する仕組みが整っていなかったことが要因と考えられる。	支援内容は振り返りを共通様式で記録する仕組みを整理し、定期的に評価見直しを行うことで、支援の質の向上と見えるかを図る。
2	小印鑑の情報共有や支援の振り返りは行ってはいるものの、評価基準や記録様式が統一化されているものとしてないものと支援の見えるかにはばつきがみられた。	各職員の専門性に依存した支援となっていることもあり、共通の評価視点や様式を用いた整理が十分に行われていないこともあった。	職員間で評価視点を共有するため、定期的なケース検討や振り返りの機会を確保し、支援内容の統一と改善につなげていく
3	保護者への説明や情報共有は行っているが理解度の確認や双方のやり取りの仕組みが十分に整備されていない。	保護者への情報提供は種に高等や個別対応が中心となっており体系的に伝える手段や確認方法が不足していた。	保護者に対しては、文書や資料を活用した説明を行うとともに、意見の理解度を確認する機会を設け、双方の関係づくりを進めていく。